

Ⅰ 教育目標	
	○ 学び続ける人 ◎ 心豊かで、思いやりの有る人 ○ 明るく、健やかな人
Ⅱ 経営方針	
目指す学校像	○ 生徒一人一人が関わり合いながら生き生きと活動できる、明るく楽しい学校 ○ 施設一体型を生かした小中連携教育を推進する安全で、安心できる学校 ○ 学習者中心の授業をめざす学校（主体的・対話的で深い学びの実現、安心して学べる授業規律）
目指す生徒像	○ 意欲をもって学び、考え、行動し、さらに自分を高めるために学ぶ人 ○ 相手の気持ちを大切にし、多様な人々と共に生きようとする人 ○ 困難にも粘り強く向き合う精神と、それを支える体力がある人
目指す教師像	○ 人権感覚を基盤に、生徒の良さと可能性を認め、励まし続けることができる教師 ○ 時代のニーズを踏まえた知識・技能を有し、学習者中心の授業を創る教師 ○ チームとして互いにリスペクトし、互いの強みを活かせる教師
経営理念	① 地域における自校の使命 <u>「江東区立有明中学校は、すべての生徒と大人が互いの存在を尊重し、共に学び合い、地域社会の多様性を強みに変える『公共の学びの拠点』である。」</u> ・尊厳の保障：生徒も大人も「リスペクトを前提とする」という価値観を地域に広げる。 ・社会モデルの実践：物理的・制度的・概念的な社会的バリアを取り除き、誰一人として取り残さない学びの保障を目指す。 ・地域貢献：地域課題やSDGs等を教材として取り上げ、生徒と共に解決策を創出し、地域全体のウェルビーイングを高める。 ② 何を目指して教育活動を進めるか（ミッション） <u>「子どもの権利条約の4原則および『江東区こどもの権利に関する条例』を基盤として、エビデンスに基づく教育と自他を大切にする教育を両立させ、生徒の深い学びとポジティブな行動の育成を目指す。」</u> ・権利尊重の文化形成：子ども一人ひとりの意見表明や自己決定を尊重する文化を醸成することで、生徒の主体性を育む。 ・データに基づく教育実践：全国学力・学習状況調査、こうとう学びスタンダード定着度調査、学校評価等を活用した、エビデンスに基づく授業改善や生徒理解に取り組む。 ・ポジティブな行動支援：教員が生徒の肯定的な行動を見取り、積極的に賞賛・強化することで、自他を大切にする行動を学校文化として定着させる。 ③ 実現したい自校の将来像（ビジョン） <u>「誰もが十分に学び、全ての生徒が輝くことのできる、学習者中心のインクルーシブな学校を実現する。」</u> ・多様なニーズに応じた教育環境：生徒一人ひとりのニーズに応じた合理的配慮を実践し、誰もが安心して学べる環境を整備する。 ・生徒主体の学びの実現：授業や学校活動において、生徒自身が主体的に課題を見付け、仲間と協働して解決できる仕組みを構築する。 ・全ての生徒が活躍できる場の提供：授業だけでなく、部活動や学校行事、生徒会活動等においても、全ての生徒が自分らしさを発揮し、輝くことのできる機会を保障する。

Ⅲ 経営目標

重点領域 1		「確かな学び」「新たな教育手法の確立」
中期経営目標	○ こうとう学びスタンダード（ネクストステージ）の推進による学力の向上 ○ 生徒が課題を発見し、主体的に解決しようとする学習文化の定着	
短期経営目標	○ 1人1台端末を活用し、「Ariake スタイル」による学習者中心の授業の推進 ○ 「何のために学ぶのか」「タテとヨコの関係」等を明示した単元・授業づくりの推進	
項目	努力指標（教師側）	成果指標（こども側）
1	単元ごとに「何のために学ぶのか」等を明示するとともに、毎時間学習のねらいを示し、振り返りを行う授業を全教員で100%実施する。	・「授業開始時にねらいを示されることで、授業への関心が高まった」と肯定的に回答する生徒を全校の80%以上にする。 ・「生徒が授業を振り返り、自分の課題を発見しその解決のために取り組めた」と肯定的に回答する生徒を全校の85%以上にする。
2	各教員の持ち時数の50%以上の授業で、ICTや1人1台端末を活用し、「Ariake スタイル」による授業を実践する。	「ICTや1人1台端末の活用から学習への関心が高まり授業への積極さが出てきた」と肯定的に回答する生徒を全校の75%以上にする。

重点領域 2		「豊かな心」
中期経営目標	○ 自他を大切にする優しい心の育成 ○ 多様性を認め合う教育の推進	
短期経営目標	○ 小中連携による人権教育の推進 ○ 特別支援学級と通常の学級との交流及び共同学習の推進	
項目	努力指標（教師側）	成果指標（こども側）
1	「江東区こどもの権利に関する条例」の自校化に向けた生徒会主導の取り組みを全生徒対象に年2回以上実施する。	「人権に関わる意識が高まった」と肯定的に回答する生徒を全校の85%以上にする。
2	小中連携によるあいさつ運動（年3回実施）とは別に、生徒を中心とした独自のあいさつに関する取組を年間1回以上実施する。	「来校者への挨拶（会釈）が前よりもできるようになった」と肯定的に回答する生徒を全校の85%以上にする。
3	道徳科の授業改善を図るとともに、各学年で共通の資料を用いた研究を年間1回以上実施し、道徳授業地区公開講座等で発信する。	「思いやりの有る人を意識して取り組むことができた」と肯定的に回答する生徒を全校の90%以上にする。
4	学校行事及び給食などにおける特別支援学級と通常の学級との交流を、それぞれ年間3回以上実施する。	

重点領域 3		「丁寧な相談」
中期経営目標	○ 魅力ある学校づくりの推進	
短期経営目標	○ 不登校の新規数の減少及び学校に行きづらい生徒の学びの場の充実	
項目	努力指標（教師側）	成果指標（こども側）
1	生徒意識調査および教員意識調査の結果を分析し、「居場所づくり」と「絆づくり」に関する方針を年3回立案・実施・評価する。	・年3回の生徒意識調査において、回答傾向が改善する。 ・昨年度と比較して、不登校の新規発生件数が減少する。
2	校内の別室指導を利用する生徒については、利用日ごとに1回以上、支援員に加えて担任等との交流時間を設ける。	不登校出現率を7.5%以下に抑える。